

**「視点という教養(リベラルアーツ) 世界の見方が変わる 7つの対話」 深井 龍之介、野村  
高文著 イースト・プレス 2022年6月発行**

私が紹介する書籍は、深井龍之介氏と野村高文氏による『視点という教養(リベラルアーツ) 世界の見方が変わる 7つの対話』であり、リベラルアーツの思考法を紹介する書籍です。本書から、物理学、文化人類学、仏教学、歴史学、宗教学、教育学、脳科学の7分野のトップランナーたちとの対話から、社会に多面性があることを理解することを期待でき、そして、自分自身が納得する決断ができる視点を獲得することが期待できます。

ここで、「リベラルアーツ」とは、自由な知的探究のための学問体系の総称であり、生きるための力を身に付けるための手法であり、「こうあるべき」という概念から解放され、自由に生きるための手段を学ぶ学問です。

旭川高専生は専門分野の教育を広く・深く学んでいるが、在学中あるいは卒業後、社会で広く活躍し、人生を豊かにするために、学生自身が納得する決断ができるようになるための視点を獲得してほしく、社会には多面性があることを理解してほしい。

本書には、七つの対話があるが、特に印象が残った話題は、「歴史との対話」であり、過去の出来事や歴史的な文脈を理解することで、現在の状況や課題に対する洞察が深まることが期待でき、歴史の中でパターンや変化の認識から、将来への洞察を得ることができます。さらに、過去の人々の経験や苦難を知ることで、他者との共感が生まれ、異なる背景や状況に対する理解が深めることができ、個人や社会全体の共感力を高め、対人関係を向上させることが期待できます。

これらの理由から、歴史との対話は現代社会においても不可欠であり、個人や社会が持つリーダーシップ、コミュニケーション、問題解決の能力を向上させる重要な教材となっています。

これから続く人生を豊かにするために学びを継続するため、この書籍を入り口として、書籍中で紹介された書籍を読み深めてほしいです。